

核融合研機関リポジトリの コンセプトと将来展望 — 共同利用機関のリポジトリ —

H22 年度 CSI 事業報告会
核融合科学研究所

三戸利行、力石浩孝*、河本善子、橋本香苗、難波忠清
(リポジトリ作業会)

報告内容

リポジトリ構築におけるコンセプト
これからの展望

リポジトリ構築のコンセプト

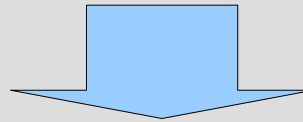
★ 研究の特性 – プロジェクト研究が主体である

★ 成果の帰属

成果はプロジェクトにも帰属

★ 成果発表のプロセス

研究チームによる承諾



★ トップダウン的なアプローチ

★ 運用方針決定と実務の分離

★ 方針策定 = 委員会：判断を行う

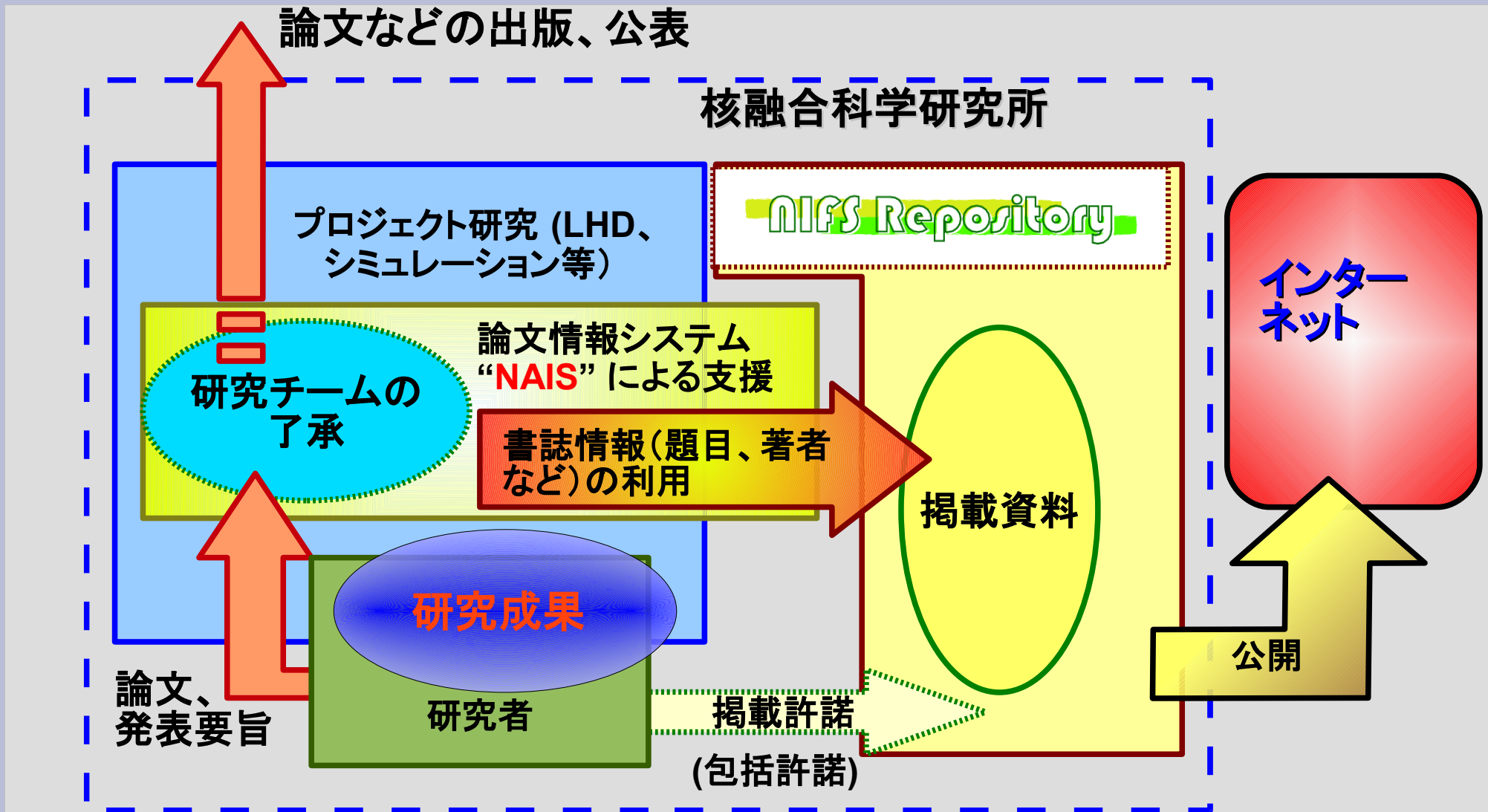
★ 実務作業 = 作業会：原則として判断を行わない

★ 研究者の負担軽減

作業会による登録、包括許諾



成果公開の流れ



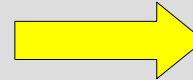
リポジトリ運用体制

運用の枠組みを担当

図書・出版委員会
出版専門部会
(教育職員主体)

要綱、指針作成
方針、手順の決定
必要な判断を下す

方針
提示



報告

運用実務を担当

リポジトリ作業会
(評価情報室長)

サーバの運用
データ入力、更新
著作権調査

- ★実務担当者に運用責任は負わせられない。
- ★実務担当者が変わっても判断基準を変えない。
- ★運用のマニュアル化
判断が必要な場合には委員会に投げつける。

NIFS リポジトリの経過

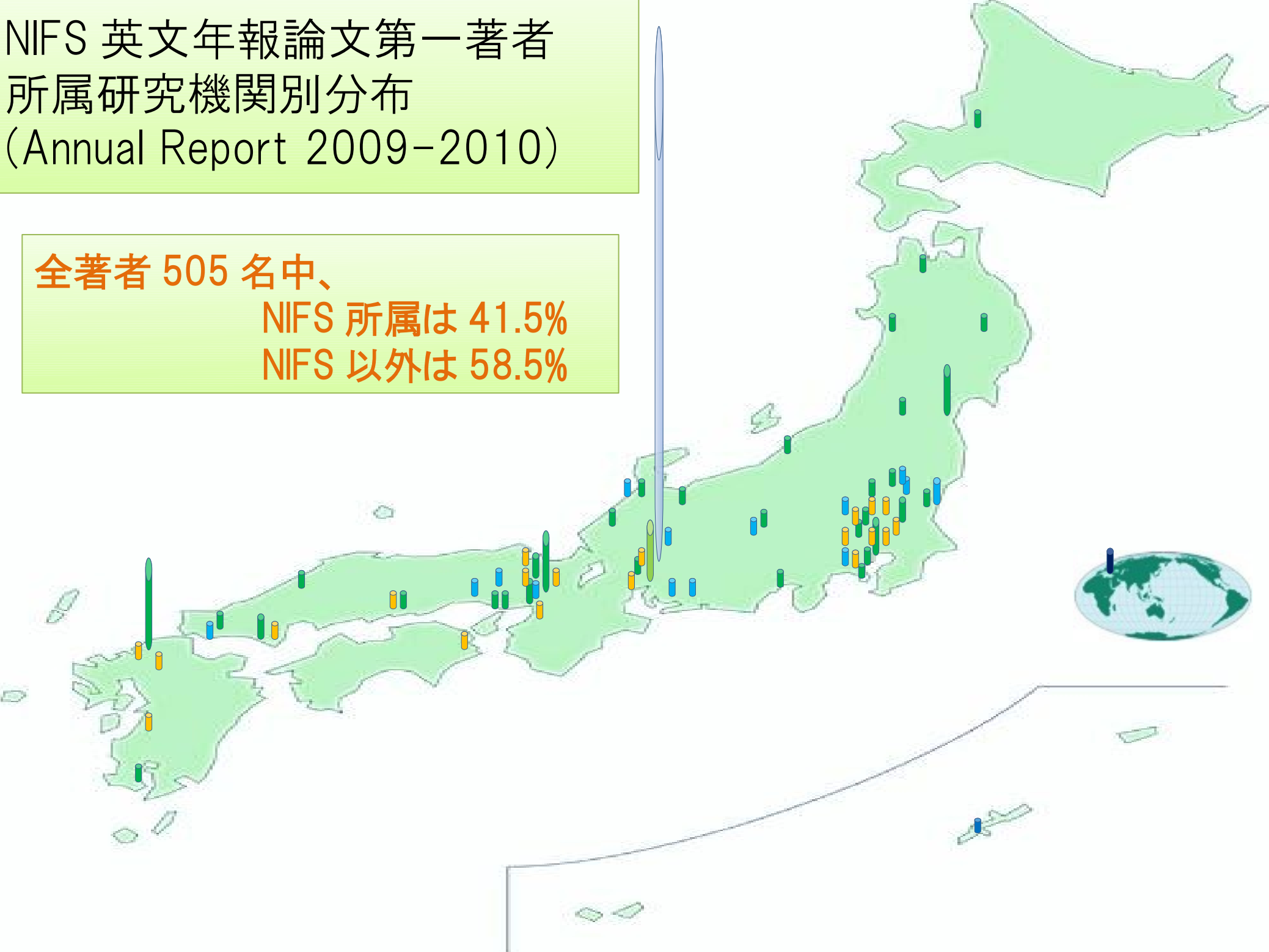
- ★ H19 : 準備期間
ポータル研修、情報収集
- ★ H20: 中期計画年度計画にリポジトリを明記
 - ★ 前半: 練習用サーバ立ち上げ
 - ★ 後半: サーバ立ち上げ、試験運用
運用要綱、指針の策定
- ★ H20 年度末: 公開
- ★ H21 年度: CSI 委託事業参加
データの遡及入力、機能拡張
- ★ H22 年度: 本格的運用開始

蓄積、公開した資料を見てみると



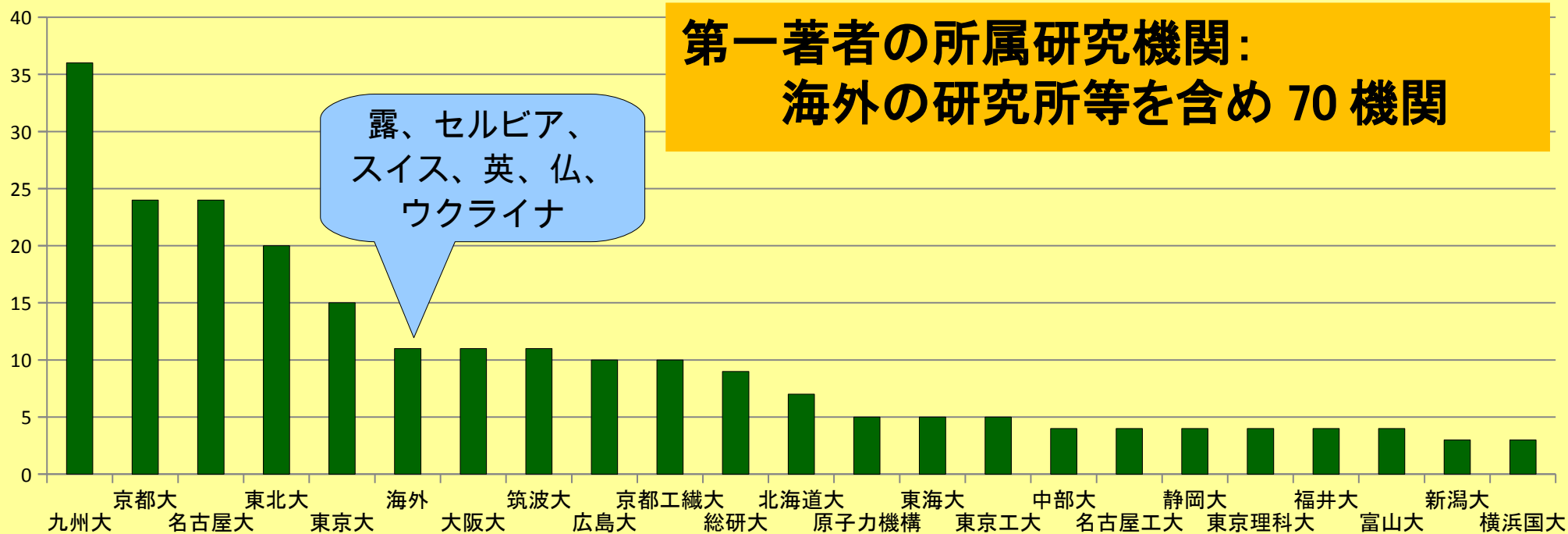
NIFS 英文年報論文第一著者
所属研究機関別分布
(Annual Report 2009-2010)

全著者 505 名中、
NIFS 所属は 41.5%
NIFS 以外は 58.5%



NIFS 英文年報論文第一著者 所外研究者の所属研究機関別分布 (April 2009 - March 2010)

掲載全論文 505 報中、NIFS 外の第一著者は、58.5%



【その他大学、独立行政法人など】

弘前大、秋田大、山形大、岩手大、宇都宮大、群馬大、茨城大、電気通信大、金沢大、信州大、神戸大、岡山大、山口大、島根大、鹿児島大、琉球大、豊橋科学技術大、神戸商船大、分子科学研究所、大阪府立大、兵庫県立大、長野工業高等専門学校、石川工業高等専門学校、大島商船高等専門学校、上智大、日本大、東邦大、国際基督教大、立教大、成蹊大、大同大、立命館大、関西大、近畿大、岡山理科大、広島工業大、徳島文理大、九州工業大、福岡工業大、東海大学熊本キャンパス、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、情報通信研究機構・電磁波計測研究センター、海洋研究開発機構・地球シミュレータセンター、理化学研究所・播磨研究所、土岐市立陶磁器試験場

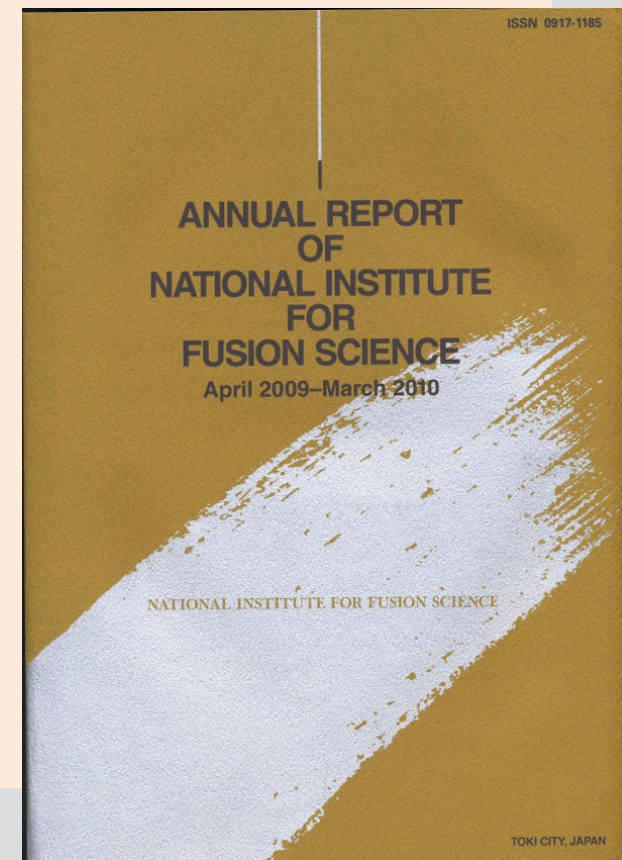
大学共同利用機関のリポジトリ —特徴と展望—

- ★ 第一著者が所内に限らず全国の機関に分布。
- ★ 核融合研究における分野リポジトリへと展開できる(?)。
- ★ 資料の相互利用を推進したい。



研究所英文年報の著作権取り扱い

本英文年報に提出されました原稿は、“Annual Report of National Institute for Fusion Science: April 2010 – March 2011”【冊子体、電子版（CD 及び研究所 web サイト）】として出版されるとともに、研究所リポジトリに掲載されます。また、研究所外の共同研究者からの原稿（共著者を含む）については、**各共同研究者の所属研究機関（大学等）の機関リポジトリにも掲載される場合があります。**



まとめ

★リポジトリ構築のコンセプト

★プロジェクト研究の成果

成果報告の手続きと連係

プロジェクトの成果として公開

研究者の手間を省略（包括許諾、代行入力）

★制度設計と運用の分離

誰が運用しても同じ判断基準

マニュアル化

★リポジトリの特長と展望

★所外著者の資料も掲載

★分野リポジトリへの展開

